

成人百日咳感染の特徴について—咳喘息、他の感染後咳嗽との比較

独立行政法人国立病院機構福岡病院 呼吸器科

野上裕子、岡田賢司、岩永知秋

従来小児の疾患であると言われていた百日咳であるが、近年成人でも報告され、その罹患率は増加している。成人百日咳感染の特徴を明らかにするために、咳喘息、その他の感染後咳嗽患者と背景因子を比較した。

【対象と方法】平成19年7月から平成21年5月までに2週間以上続く咳を主訴に当院を受診した患者のうち、胸部レントゲン正常、聴診でラ音を聴取せず、咳に関するアンケート調査を施行した136例（男性41例、女性95例、平均年齢 45.1 ± 16.2 歳）を対象とした。全例で、百日咳毒素に対する抗体価（抗PT抗体）を測定し、LAMP法により抗原の有無を検査した。また年齢、罹病期間、喫煙歴、家族（職場）内の咳の有無、咳の臨床症状、末梢血白血球数（好中球数、リンパ球数、好酸球数）、IgE値、換気機能を測定した。

【結果と考察】136例中、百日咳感染56例、咳喘息18例、その他の感染後咳嗽15例であった。3群で背景因子を比較したところ、百日咳患者では、家族（または職場）内に咳をしているものがある比率が他の2群より高く、咳喘息ではHD、ダニのRAST値が高値であり、感染後咳嗽ではCRPが他の2群より有意に高値であった。換気機能では、百日咳感染、咳喘息において、 $FEV_1/FVC\%$ 、 $\% \dot{V}_{50}$ 、 $\% \dot{V}_{25}$ が低値であった。百日咳の咳症状は、息がとまりそうな咳が特徴的であった。成人咳嗽の原因の一つとして百日咳も考慮する必要があると考えられた。